琉球大学学術リポジトリ

米国管理下の南西諸島状況雑件　要人往来（総務長官等閣僚訪沖）(2)

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2019-01-22 キーワード (Ja): 床次総務庁長官, ランパート米国高等弁務官, 中曽根防衛庁長官, ランパート米国高等弁務官 キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43237

本 邦 纔 報 道

45. 10. 7. サンケイ（朝刊 2面）

沖縄緊迫 きょう中曽根長官訪問

自衛隊配備困る

屋良主席が意見表明へ

【那覇六日＝横山介勇特派員】屋良副首・琉球政府主席は、沖縄を訪問する中曽根防衛庁長官と、六日に会談する予定だが、席上「沖縄の自衛隊配備計画は、県民世論にのっとり反対する」との意思表示することを、六日夕から明らかにした。これは同日開かれた定例閣議会議ではかって決めたもので、政府見解として伝えられる。

革新団体は抗議行動

【那覇六日＝横山介勇特派員】午後、沖縄を訪れるが、現地では革新政党、学生団体らが同長官の中曽根防衛庁長官は、きょう七日復帰協を中心とする革新団体や防衛に強く反発して続「抗議行動

中曽根防衛庁長官の来沖で早くも反対のビラはり＝那覇市の国際通りで

を決定。一方右翼団体は「歓迎デモ」を計画、左右両勢力の衝突を防ぐため警察警察本部も機動隊、私服警官など三百五十人を動員し厳重な警戒体制をしくなど緊張した空気に包まれている。

中曽根長官はグラバ在日米軍司令官（空軍司令官）の招きで、現職の防衛庁長官としてはじめて沖縄を訪れる。七、八の二日間、ランパート高等弁務官、フィアリー長官官、屋良主席などと会見するほか、嘉手納、那覇、ミサイル各基地や第一兵たん司令部など米軍施設を視察することになっている。

ところが革新諸団体では「長官の訪沖が米軍側の招待ということから」として問題だ。ねらいが日米共同軍事路線にもとづき、沖縄基地の強化と共同整理、七二年以後の自衛隊配備計画を推進するためであり、きわめて軍事的要素の強いことを証明している」と判断、七日は復帰協を中心に県労協、原水協、救援食会の四団体約三千人を動員、那覇空港前で長官訪沖反対統一行動をとることになった。

すでに那覇市内をはじめ、中、南部に「中曽根長官くるな」と書いたステッカー三千、吉坂をはっているほか、当日は横断幕、立て看板、チラシなどを準備、長官訪沖のねらいを糾弾していくという。

これに先立ち同四団体の代表や社会党県本部の幹部は六日ひる、屋良主席をたずね「中曽根長官と会談のさい、自衛隊配備反対は県民の総意であることを強く表明べきだ」と申し入れた。

また大民党もこのほど頼まれた中央委員会で長官の訪沖抗議糾弾行動をとる旨を決めている。

さらに並マル、中核などの学生団体も七日のデモ許可申請を出しており、空港周辺で過激な抗議行動に出るもよう。

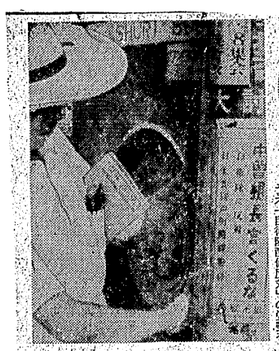
一方、那覇市内の右翼団体「日本民族原理普及会」（日恩会）では制服にヘルメット姿の行動隊百人を動員、七日午前十時から那覇市内の目抜き通りを那覇空港前までデモ行進、自主防衛体制確立、中曽根長官歓迎をアピールする計画で。中曽根長官を迎える那覇空港はかなりの混乱が避けられない見通しだ。

45. 10. 7. 毎日（朝刊 2面）

自衛隊の沖縄配備

主席「反対」打出す

訪沖の中曽根長官に表明へ



屋良主席

【那覇支局六日】七、八両日に予定されている中曽根防衛庁長官の沖縄訪問に対して、現地では革新団体を中心に反対の空気が強まっているが、屋良琉球政府主席は六日、沖縄への自衛隊配備について中曽根長官に「反対」の意思表示をすることを決めた。

これは同日、沖縄県祖国復帰協議会（四十九団体加盟）の「自衛隊の沖縄配備に反対の意思を明らかにして欲しい」との申入れを受け、屋良主席が自主的に判断したうえ「自衛隊配備反対」の姿勢を打出したもの。

この意思表示は八日中曽根長官との会談で行なわれるが、琉球政府が復帰後、当然、配置される自衛隊に反対の態度を公式に明らかにしたのははじめて。今後沖縄の反対運動に「足がかり」を与えるとともに、本土政府を強く刺激する。

73年の「復帰記念国体」に賛成

琉球政府きめる

【那覇支局六日】琉球政府は、六日の局長会議で七三年に予定される「復帰記念国体」に賛成することになるわけで、琉球の推移が注目される。

復帰作業、一層困難さ増す

解説

中曽根防衛庁長官を迎える琉球政府、とくに屋良主席の反応は早くから注目されていたが、六日屋良主席は「自衛隊の沖縄配備反対」という姿勢を打出した。沖縄の「無条件全面返還」を打出している沖縄県祖国復帰協などの革新団体は、今度の中曽根防庁を「日米共同声明による自衛隊の米軍肩代わりの地ならし」とみて反対、屋良主席にもこれを確認するよう迫っていた。

その背景には、沖縄で強い関心を集めている教育制度の"本土並み移行"について、屋良政権が早くから「やむを得ない」という態度を見せ、また六日就職した総務局長の後任に自治省幹部を迎えようとするなど、一連の政治行動が、本土政府に密着したものとなり、急速に"革新色"を失いつつある沖縄という革新陣営、与党の"屋良不信"の声があったわけだ。

こうした不信、突上げにたえ、屋良主席は自らの選挙体たった復帰協などの革新団体の声に耳を傾けたという形で、自衛隊配備反対の意思表示をせざるを得ない立場に追込まれたともみることができよう。

中曽根長官は訪問を前に「私は沖縄の住民の意向を尊重し」ようという低姿で臨んでいるのであって、一部で限解されているのは残念だ」と語っているが、屋良主席の正式意思表示によって、沖縄に対する本土政府の態度を硬化させることになるのではないかと心配する向きもある。

革新団体をバックに当選した屋良主席は本土政府を相手に困難な復帰作業を進めなければならない。今度のケースは本土政府と地元の支持団体の間に立つ屋良政権の苦悩を示すものだが、自衛隊配備問題は一切政治的にも複雑さ困難さを加えたことは否定できない。

（那覇・神田特派員）

これに関している本土復帰記念国体の開催に同政府として賛成の意思を正式に決めた。ただし、国体の開催費（総仲費、施設、建設費、など）は全額、国が負担することを条件としている。

45. 10. 7. 読売（朝刊－2面）

自衛隊配備に反対

中曽根長官に屋良主席、表明へ

【那覇六日山田特派員】中曽根防衛庁長官は七日の沖縄を訪問、米軍基地を視察するが、現地では「これをきっかけに自衛隊の配備計画が進められるものと判断、抗議行動を展開しようとする機運が急速に高まってきた。このため琉球政府の屋良主席は同長官と会談の際、「県民の世論が自衛隊の配備に反対しており、主席としても反対である」との意見を正式に伝えることになった。

復帰協、社会党、人民党などの代表は六日「中曽根長官の視察は基地の恒久付き自由使用の固定化と、自衛隊による肩代わりをねらったものであり、軍国主義の復活につながる」とし、屋良主席が中曽根長官に直接自衛隊配備に反対する立場を表明するよう要請した。これに対し屋良主席は「県民の世論を正式に伝えるとともに、「自衛隊の配備に反対である」との意見を表明する。」

「沖縄では太平洋戦争の際、日本軍十二万人、米軍一万二千人、住民十数万人の犠牲者を出した記憶が生々しく、二十五年間の米軍の基地支配により自衛隊に対しても強い拒否反応を示している。この様な県民感情が防衛庁長官の来訪をきっかけに表面化している。」

復帰協を中心とする革新団体は同長官が那覇空港に到着する七日午後一時半、同空港に二千人を動員、抗議行動を行なうことにしている。また「中曽根長官、来るな」「軍国主義反対」といったポスターやスピーカーが町に張りめぐらされ緊張した空気となっている。

那覇市国際通りにはられた中曽根長官来訪反対ビラ

自衛隊配備反対

中曽根長官に、屋良主席表明へ

【那覇・斎藤特派員六日発】屋良主席は七日、沖縄を訪問する中曽根防衛庁長官に対し、自衛隊の沖縄配備に関する住民の立場を説明、防問するさい、このことを伝える。

「一方、琉球警察本部は中曽根長官が那覇空港へ着く七日午後一時半前後に、那覇空港へ機動隊八百人を動員して厳戒体制をしく。これは教職員会、県労協、学生約二千人が長官の来沖反対を叫んで抗議行動をするため混乱が予想されるからだとしている。

主席は七日、沖縄を訪問する中曽根防衛庁長官と会談で防衛の来、決められたもので八日午前、中曽根長官が主席を細配備に関する住民の立場を説明、防問するさいこのことを伝える。すること、とし、自衛隊配備に「反対である」の態度を表明する。」

これは六日開かれた琉球政府の局長

45. 10. 7. 東京（朝刊－1面）

屋良主席

自衛隊配備に反対

防衛庁長官に申し入れへ

【那覇六日共同】琉球政府の屋良主席は沖縄を訪問する中曽根防衛庁長官に対し「沖縄への自衛隊配備反対」を正式に申し入れることを六日夕、決定した。同長官は八日午前、屋良主席を訪れるが、同主席はそのさい、ほかの要請事項と合わせて文書で自衛隊配備反対を申し入れる。琉球政府が沖縄への自衛隊配備について反対の意思を正式表明するのはこれが初めてで、防衛庁が計画している陸、海、空計三千三百人の沖縄配置に関し、今後なんらかの影響が出ることも予想される。屋良主席の中曽根長官に申し入れる内容の骨子は「沖縄県民の世論は自衛隊配備に強く反対している。私としてもその世論の上にたって配備に反対する」というもの。

同主席は沖縄への自衛隊配備問題について六日午前、革新与党の人民、社会両党や復帰協から「県民に自衛隊配備反対の意思を明示してほしい」と要請された。そのさい「高度な政治的問題である」として慎重に態度を検討してきたが結局「配備反対」の態度を正式に決めた。

防衛庁は七二年復帰後の沖縄に陸、海、空自衛隊員三千三百人の派遣を計画し、その配備先として現在米軍が使用している那覇空軍基地、ホワイトビーチ軍港などを内定しているという。

訪沖反対は心外

防衛庁長官語る

中曽根防衛庁長官は六日の閣議後の記者会見で「一部の沖縄住民が私の沖縄訪問について反対しているが、私の沖縄訪問は沖縄の住民の意向を実現しようという試みで行くのであって、一部誤解されている面があるがこれは遺憾である」と語った。

中曽根訪沖反対で二千人を動員

復帰協の労組など

【那覇六日共同】中曽根防衛庁長官の沖縄訪問を控えた六日、沖縄現地では復帰協所属の各労組、団体は同長官が到着する七日、那覇空港に二千人を動員、抗議行動を展開するため最終的な組織点検を行なうとともに、防沖反対を訴えるポスター、ステッカーを大量に用意するなど現地情勢は緊迫の度を加えている。

復帰協所属の労組、団体は三日の執行委員会の決定に基づく同長官訪沖反対闘争の取り組みを強めており、すでに県労協千人、教職員会五百人、原水協など五百人、計二千人動員の目安がついたと復帰協はみている。

これら抗議団は七日那覇空港に到着する同長官に沖縄訪問反対を表明するとともに、抗議文を手渡す方針である。